

もも栽培情報 第7号

令和7年8月21日
J A ア ル プ ス
富山県富山農林振興センター

1 概況

収穫はおおむね終了し、今後は、来年産に向けての管理作業が中心となります。

2 病害虫防除

一部でせん孔細菌病の被害葉が見られます。病原菌の越冬密度を下げ、来年の被害を軽減するため、散布ムラのないよう下表を参考に防除を実施してください。

(散布量：400L/10a)

回	時 期	対象病害虫	使用農薬	希釈倍率	100L 当たり 必要 薬剤量
12	8月下旬 (収穫後) (※1)	モモハモグリガ、シンクイムシ類 展着剤	サムコルフロアブル10 マイリノー	5,000倍 20,000倍	20 mL 5 mL
13	9月中旬	せん孔細菌病	ICボルドー412 (※2)	50倍	2 L
14	9月下旬	せん孔細菌病	ICボルドー412 (※2)	50倍	2 L
15	10月上旬	せん孔細菌病	ICボルドー412 (※2、3)	50倍	2 L

※1：この頃に、ハダニ類の発生が見られる場合は、**マイトコーネフロアブル**（1,500倍、収穫前日まで、使用回数1回）を単剤で防除してください。

※2：ICボルドー412の予防効果の持続期間は、15日間程度なので、散布間隔が空きすぎないように注意してください。せん孔細菌病は、風雨で感染が拡大するので、台風等の強風が予想される場合は、事前にICボルドー412を散布し、感染拡大を防止してください。ただし、散布直後に降雨に遭遇すると薬害が発生するので、注意してください。

※3：10月上旬のICボルドー412の散布は、せん孔細菌病の発生が見られない未結実樹園地では、省略可能です。

農薬散布の際は、濃度や対象病害虫など、農薬容器のラベルを必ず確認してください。
また、周辺の他の作物や住宅等に薬剤が飛散しないよう十分注意してください。

3 施肥管理

来年の生産に向け、葉の活力を高め、貯蔵養分の蓄積を促すため、結実樹は、収穫終了後に速効性窒素単肥（硫安等）を、年間窒素施用量の20%程度を目安に施用してください。

(5年生以上樹の施肥例)

種類	施肥時期	肥料	施肥量 (10a 当たり)	成分量		
				N	P	K
礼肥	9月上旬頃	硫安(21-0-0)	15kg	3.15kg	—	—

※2～4年生樹の施肥量はこの半分程度が目安

4 秋季せん定（図1）

新梢の発生量が多い樹や新梢伸長が旺盛な樹は、樹冠内部が暗くなり、枝の充実不良や樹形の乱れなどが起こりやすくなります。

樹勢コントロールと樹体内の充実を図るため、以下を参考に9月上～中旬に秋季せん定を行ってください（早すぎると二次伸長を招き、遅すぎると秋季せん定の効果が表れません）。

- ・樹形を乱す強勢な新梢を中心に切除し、同時に樹冠内部に光と薬剤が到達するように直上した枝も切除する。
- ・過度な切除は樹勢の低下を招くため、切除量は最大でも全せん定量（秋冬季のせん定量）の30%までとし、弱樹勢樹では実施しない。
- ・切除の際は、翌年以降の結果枝確保のため、基部から切除せず、10cm 程度残して切除する。なお、副梢がある場合は、副梢を1本程度残して切除する。
- ・縮間伐予定樹では、永久樹の樹形確立の妨げとなるような枝等を優先して切除する。

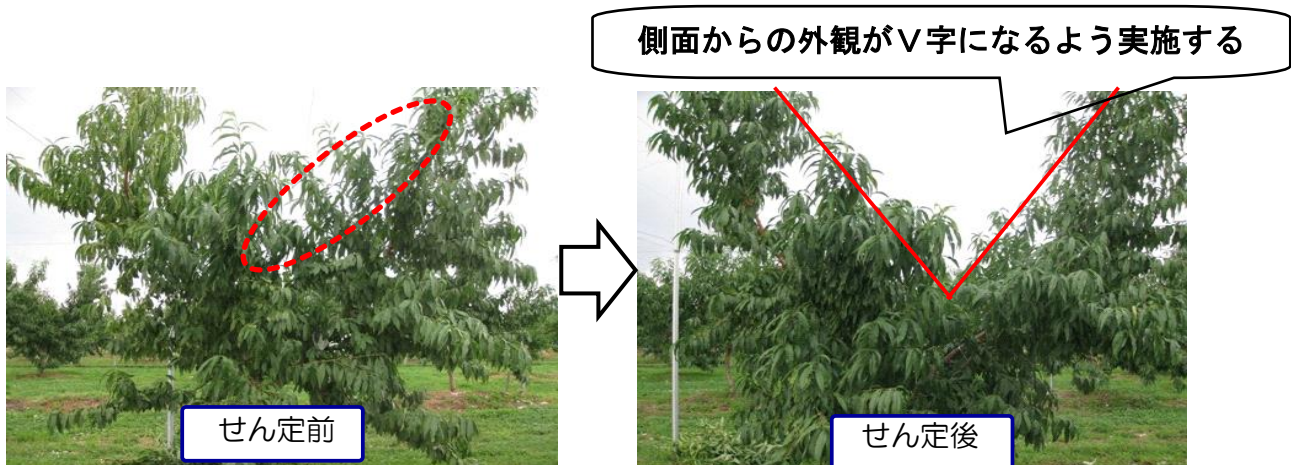


図1 秋季せん定の例

5 台風等の強風対策・雪害対策

主枝や亜主枝など骨格枝の折損防止のために収穫期前に設置した支柱について、果実の重みの負担がなくなったことから、浮き上がった状態になるなど、支柱としての役割が十分果たされていないものが見られます。

今後の台風等の強風や、冬季の雪害を防ぐため、以下の点に留意して対策を実施してください。

（1）事前・事後点検

- ・支柱がしっかりと効いているか、結束ヒモの緩み・劣化が無い点検・補強
- ・防風施設の支柱やネット等の点検・補強
- ・明きょ・暗きょ等排水路の点検・手直し

（2）被害が発生した場合の事後対策

- ・枝折れ等の傷口はきれいに切り直し、トップジンMペースト（使用回数：年間3回以内）等を塗布する。
- ・倒伏した樹体は、根の損傷をきれいに切り直し、トップジンMペースト等を塗布した後、樹体を引き起こして支柱入れ、根回りのかん水を実施する。

- 農作業に当たっては、こまめに水分を補給するなど、熱中症に留意してください。
- 脚立での作業や、農業機械での作業時等の作業安全対策を徹底し、農作業事故発生防止に十分努めてください。